

## 【シンポジウム報告】

### シンポジウム「東日本大震災・復興を考える」開催報告

和田 明子（東北公益文科大学教授）

2013年3月20日（水・祝）、東北公益文科大学酒田キャンパス301教室（大教室）にて、シンポジウム「東日本大震災・復興を考える」が開催された。主催は東北公益文科大学公益総合研究センター、共催は早稲田大学現代政治経済研究所、後援は日本学術振興会であった。当日のプログラムは次のとおりである。

総合司会：武田真理子（公益総合研究センターニュージーランド研究所員・本学准教授）

13:00～13:10 開会の辞 天川晃（横浜国立大学名誉教授）

和田明子（公益総合研究センターニュージーランド研究所長・本学教授）

13:10～14:10 基調講演 柄谷友香（名城大学准教授）「東日本大震災後の地域・生活再建を支える「中核被災者」の役割と可能性」

14:20～16:00 研究報告・パネルディスカッション

報告Ⅰ（25分） 松井望（首都大学東京准教授）「震災2年目の復興行政の現状 現地調査からみたその進みと遅れ」

報告Ⅱ（25分） 和田明子（東北公益文科大学准教授）「ニュージーランド・カンタベリー地震の復興行政から学べること」

パネルディスカッション（50分）

コーディネータ：稲継裕昭（早稲田大学教授）

パネリスト：柄谷友香（名城大学准教授）

松井望（首都大学東京准教授）

和田明子（東北公益文科大学准教授）

このシンポジウムは、東日本大震災の復興プロセスを行政・地方自治の側面から調査している日本学術振興会東日本大震災学術調査行政・地方自治班と、ニュージーランドのカンタベリー地震の復興プロセスを調査している本学公益総合研究センターニュージーランド研究所が、それぞれの中間成果を発表するための共同で開催したものである。日本学術振興会東日本大震災学術調査は、  
ものであり、  
の8班で構成されている。このうち行政・地方自治班は、行政・地方自治の側面から調査を行うチームであり、2012年度の構成メンバーは次のとおりである（敬称略）。

稲継裕昭（早稲田大学）（班長）

天川晃（横浜国立大学名誉教授）  
阿部昌樹（大阪市立大学）  
伊藤正次（首都大学東京）  
遠藤哲哉（青森公立大学）  
北村亘（大阪大学）  
小原隆治（早稲田大学）  
西出順郎（岩手県立大学）  
松井望（首都大学東京）  
和田明子（東北公益文科大学）  
河合晃一（早稲田大学大学院公共経営研究科博士後期課程）

基調講演は、柄谷友香名城大学准教授にお願いした。柄谷先生の専門は都市防災計画・都市地域計画で、東日本大震災の発災当初から岩手県陸前高田市に住み込んで復興支援にあたっていた。基調講演では、